

高等教育機関へ進学した元外国人児童生徒の ライフストーリーによる振り返り —面接調査とTEM分析—

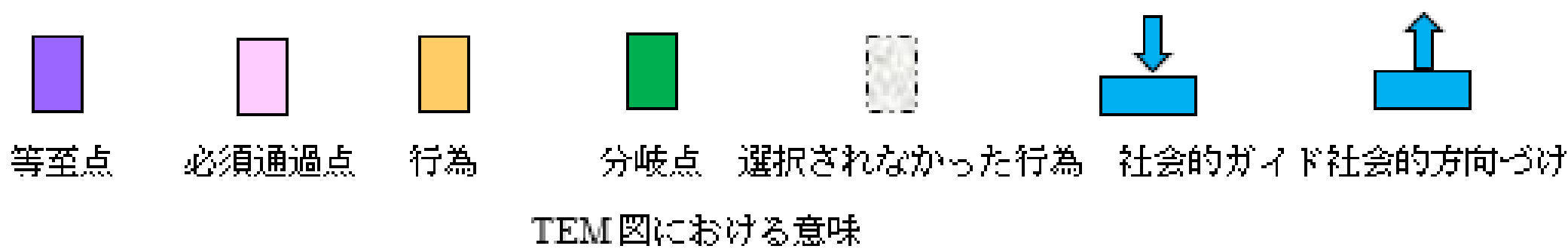
奥山和子（神戸大学大学院人間発達環境学研究所）

研究目的

本発表の目的は、現在、高等教育機関に在籍している、あるいは、かつて在籍していた元外国人児童生徒に面接調査を行い、かれらが語るライフストーリーをもとに、かれらがこれまで遭遇してきた困難な問題を**どのような支援を受け乗り越え、高等教育機関への進学**を果たしたか、そして、**学習上どのような課題**を抱えているかを考察することである。これにより、効果的支援のあり方や教科指導における留意点などを共有したい。

調査協力者の属性

調査協力者	A	B	C	D
母語	フィリピン語	フィリピン語	フィリピン語	タイ語
滞在年数	8年	10年	7年	10年
来日時の年齢	11歳	9歳	13歳	13歳
来日から高校入学までの年数	5年	6年	3年	3年
来日から高等教育機関入学までの年数	8年	9年	6年	6年
進学先	私立大学	専門学校	短大	私立大学
卒業後の希望	開発途上国に行き、その国の発展に貢献したい。	得意の野球の知識と技術を活かして、母国でスポーツの指導と普及に努めたい。	電気設備会社に就職内定。勤務地は東京本社で、国際業務に配属予定。	現在、旅行会社に勤務。



研究調査方法

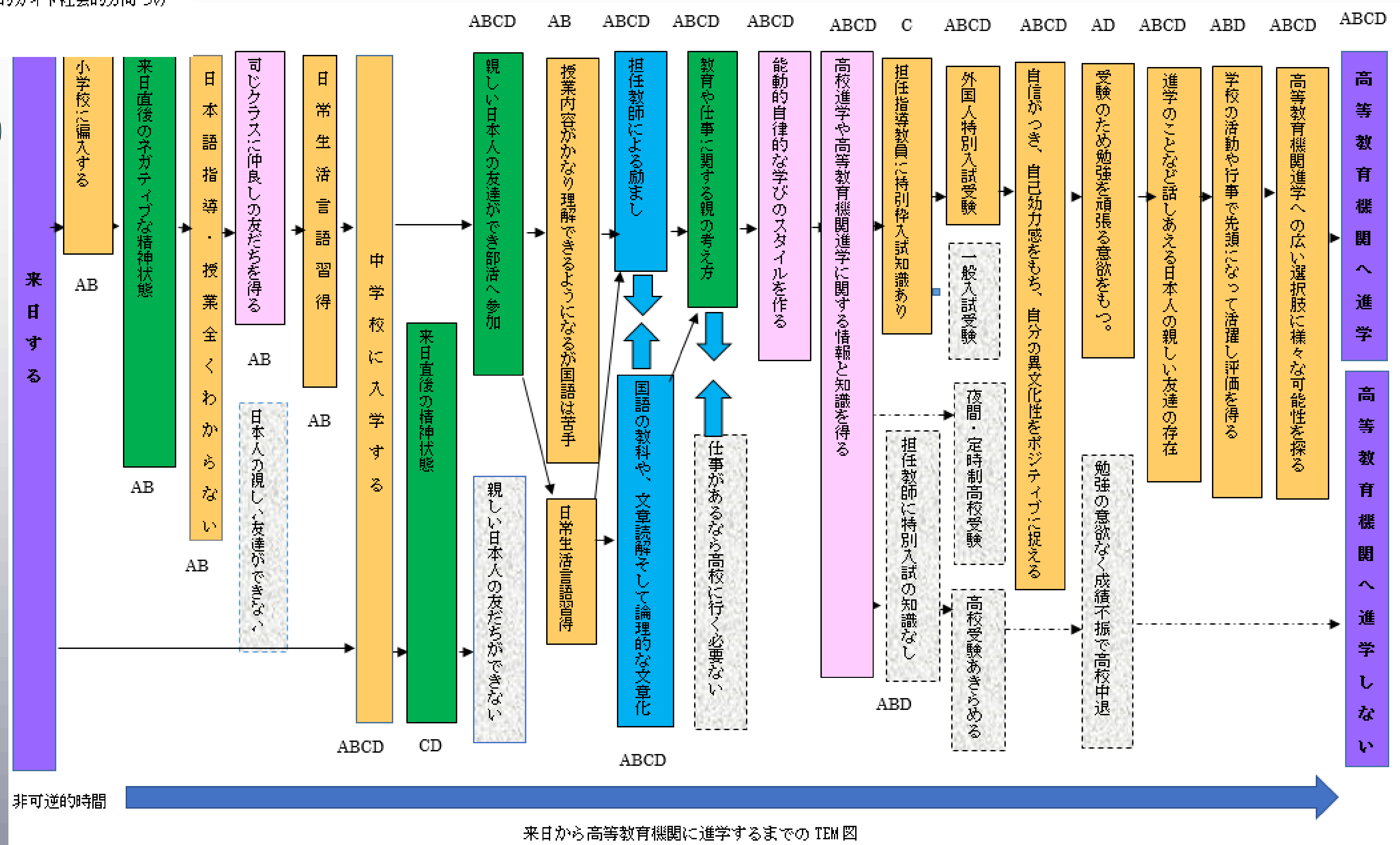
- 分析方法：TEM図を使った質的アプローチTEM分析
- 考察ポイント：高等教育機関への進学を可能にした学習方法と有益な支援は何か？
- 流れ：4名の元外国人児童生徒に面接→許可と同意の元で録音→文字化→TEM
- TEM図作成手順：文字化→意味のまとまりごとに切片化→時間軸に沿って並べる→図式化
- 分析：「概念」に基づき行動や心情の関係性を考察

TEM図の概念と本調査研究における意味

概念	概念の内容	本調査研究における意味
等至点	等しく到達する地点	・高等教育機関へ進学
必須通過点	等至点に至るまでに経験せざるを得ない地点	・同じクラスに仲良しの友だちを得る ・能動的・自律的な学びのスタイルを作る ・高校進学や高等教育機関進学に関する情報と知識を得る
分岐点	等至点に対する径路の分かれ道が発生する地点	・来日直後の精神状態を乗り越える ・教育や仕事に関する親の考え方 ・部活などの活動に参加する
社会的ガイド	分岐点で生じるこの緊張関係の内、等至点に近づけようと働く力のこと	・学歴はとても大事だから進学した方がいいと考え、サポートも得る ・いつも気にかけて、声を掛けてもらうことで励ましとなる
社会的方向づけ	分岐点で生じるこの緊張関係の内、等至点から遠ざけようと働く力のこと	・国語の教科や、文章読解・論理的な文章作成への苦手意識と弱さ

調査協力者選定基準

- ①高校を卒業して、高等教育機関（大学、短大、専門学校など）に進学
- ②非漢字圏出身者であること（実情を反映）
- ③来日時に日本語知識が全くないこと
- ④来日時の年齢が13歳頃まで（入試問題考慮）



結果

3つの支援

- ①親：精神的・経済的支援
- ②日本人の友だち：学習上・学校生活適応上の支援
- ③教師：精神的支援、進学に関する情報支援

課題

進学における課題

- ①制度面の課題：高校入試の高い壁
「高卒」資格の重要性。（大学入試は多様性と柔軟性を持つ）
- ②個人面の課題：文章作成力
高度な認知能力を要して、まとまりのある文章作成が総じて弱い。